

集中豪雨に備えよう

日本は、適度な雨に恵まれ、四季の変化に富んだ国です。しかし、通常1カ月かかって降る量の雨が数日で降ってしまう「集中豪雨」が発生することがあります。集中豪雨は、浸水やがけ崩れなどを発生させ、私たちの生活や命を脅かす可能性があります。対策をすれば被害を軽減することができます。

集中豪雨から身を守るためのポイント

日頃の心掛け

- 1 自宅周辺の排水溝などを点検して、詰まりがあったら取り除く。
- 2 地下階への浸水に備える。(仕切り板や土のうで浸水防止)
- 3 松前町総合防災マップで避難場所と持ち出し品を確認する。

天気の変化に備える

- 1 天気予報から…雷注意報、大雨や洪水の警報・注意報が出ているとき、「大気の状態が不安定」などの表現があるときは注意する。
- 2 空の状態から…「急にまっ黒な雲が近づいてきた」「雷鳴が聞こえる」「稲光が見えた」などの場合は注意する。
- 3 川の状態から…「水かさが増えてきた」「濁ってきた」「流木や落ち葉が流れてきた」などの場合は注意する。
- 4 気象情報などの入手…インターネットに接続できるパソコンや携帯電話で、気象情報を入手して活用する。

豪雨時

- 1 外では…浸水地や水の流れを避けて歩く。やむを得ず浸水地を歩く場合は、集団で行動し、傘、棒や枝などを利用して水深を確認しながら歩行する。
- 2 屋内では…避難勧告や避難指示が発表されていなくても、地下階や地下駐車場、過去に浸水被害があった場所や河川の近くにいる場合、避難に時間がかかる場合は避難する。自宅から避難する場合はブレーカーを切る。

簡易水防工法の例

小規模な水災で使用

これらの工法は、あくまで小規模な水災で水深の浅い初期の段階で行うものです。危険を感じる前に早めに避難しましょう。

例1 ごみ袋による簡易水のう



家庭用のごみ袋の中に水を半分ほど入れ、袋の口を縛る

例2 ポリタンクとレジャーシート



ポリタンクの中に水を入れ、レジャーシートで巻き込む

例3 段ボール



段ボールの中に水のうを2～3個入れる

例4 止水板



長めの板などを使用し、出入り口の浸水を防ぐ